

島民

中之島の「街事情」マガジン

秋号 Vol.131
2019 9/1

堂島ビルディング物語



ナカノシマ大学

「生きた建築ナイト
2019」

倉方俊輔 高岡伸一

ほか申し込み受付中!

堂ビル 100年 物語。

古くて新しい
「大大阪」の顔

大江橋のすぐ北側、御堂筋に面して建つ「堂ビル」こと堂島ビルヂング。スタイリッシュな外観からは想像できないが、実は大正時代に竣工した御堂筋初の近代的なオフィスビルだった。いよいよ100周年に手が届きそうになってきた堂ビルでは、現在、記念誌の制作が進行中。また、10月の「イケフェス大阪」にも参加。ニュースの多い御堂筋の老舗ビルの歴史を掘り下げてみよう。

文／三木学

取材協力資料提供／堂島ビルヂング

みきまなぶ 文筆家・編集者・色彩研究者。独自のイメージ研究を基に、ジャンルやメディアを横断した著述・編集を行う。都市やアート作品の色彩分析を多数行うほか、大阪の建築についての執筆や著書も多く、現在、橋爪紳也監修のもと「株式会社堂島ビルヂング100年史」の制作も担当。最新刊の「新大阪モダン建築」橋爪紳也・高岡伸との共編著「青幻舎」が発売されたばかり。

大大阪と 堂島ビルヂング。

堂島ビルヂング（以下、堂ビル）と聞いて、現在の大阪の方がどれくらいご存じだろうか？ 外観は現代建築の装いなので、実は戦前に建てられた近代建築だということを知る方も少ないかもしれない。

しかし、堂ビルこそ戦前の大大阪時代を代表するビルと言っても過言ではない。大正12年（1923）に竣工した堂ビルは、同年に竣工した東京の丸ノ内ビルヂングと肩を並べ「東の丸ビル、西の堂ビル」と称されたほどの存在であった。

大大阪とは、大正14年（1925）、第二次市域拡張に伴い、大阪市の人口が東京市を抜き、世界でも5、6位を争う都市となったことが由来の一つだ。大大阪を牽引したのは、大正12年に第7代大阪市長に就任した関一である。

当時、豊臣秀吉以来の近世の町割を基にした大阪は、急速な商工業化のため交通や住環境に大きな問題を抱えていた。関は東京高等商業学校（現一橋大学）で社会政策・都市政策を研究していた学者だったが、大正3年（1914）に

大阪市の助役に迎えられ、大正8年（1919）には大阪市区改正設計（都市計画のこと）をとりまとめた。そして大正10年（1921）、御堂筋や高速鉄道（地下鉄）を含む、第一次都市計画事業が内閣から認可される。

6m程度しかなかった御堂筋は、幅員約43・6m、全長約4kmまで拡張された。その新しいメインストリート沿いに燦然と輝いたのが堂ビルであった。

御堂筋の拡張により、 計画を変更。

堂ビルは、大正8年に公布された市街地建築物法（後の建築基準法）の軒高上限である百尺（約31m）いっぴいの高さまで建てられた大阪で初めてのビルでもある。

実は御堂筋の拡張が決まったため、



建設予定図を見ると、御堂筋の拡張により沿道側の敷地が削られたことがわかる。破線が拡張後を示すライン。





竣工当時の堂島ビルディング。
玄関のアーチと幾何学的な
塔屋の意匠、白い象牙色の
煉瓦張りが印象的。ファサ
ードの前がセットバックしている。
写真提供／竹中工務店

ならしめ
橋重や石井柏亭などの多
くの画家のモチーフにも
なった。

「陸の上に 沈まぬ船」。

さて、堂ビルをつくつ
た実業家・橋本喜造はも
ともと大分県出身で、叔
父である橋本雄造の養子
となり、雄造が長崎県で
開いていた橋本商店に入
店する。雄造は明治維新
後、輸入商で財をなし、
船舶業をしていた。長崎
商業高校卒業後に上京。
東京外国語大学卒業後
(諸説あり)にアメリカに
遊学。タンカー船で働き、
世界中を航海する中で、
世界の事情に精通してい
く。帰国後、橋本商店船
部を引き継いだ。

のオフィスビルを構想する。ニューヨ
ークのビル群の勃興を見て、いち早く
オフィスビルの時代を予見していたの
だろう。

そのテストケースとして大正6年
(1917)、神戸に鉄筋コンクリート
造のビル(後の橋本汽船ビル)を建設。
設計は当時、竹中工務店に在籍してい
た藤井厚二(後の京都帝大建築学科
教授)、竹中工務店の施工であった。
そして高層オフィスビルを計画し、堂
島川畔の大江橋北詰、梅田新道沿いの
約4600㎡(約1400坪)を鈴木
商店などから取得する。

その後、当時神戸に本社であった竹
中工務店の創業者、14代竹中藤右衛門
と密に会合を行っている。実質的に、
堂ビルは橋本喜造と竹中藤右衛門、橋
本汽船と竹中工務店の共同プロジェク
トであったと言えるだろう。初期の取
締役には藤右衛門のほか、鈴木商店の
専務などもおり、神戸の企業家たちの
大阪進出の母艦の意味合いもあったの
だろう。

建設予定の敷地から西と北の約200
0㎡(約600坪)を大阪市に無償で
譲渡、当初の半分近い2500㎡(約
750坪)の敷地面積になった。そこ
で、4階建ての計画から9階建て(地
下1階)の高層ビルに変更したのだ。

を揃える基準になるが、当時としては
異例の高さだった。テラコッタなどの
茶色のタイルが主流であった時代に、
象牙色のビルは、まだまだ瓦屋根の雲
海が広がる大阪市内の中で、ひととき
輝いていたという。ビルの外観や中か
ら見た眺望は絵葉書になったり、小出

日露戦争後のサルベージ業(船舶の
引き揚げ)、海運事業で成功した後、
神戸に進出。橋本汽船のほか、汽船会
社を複数立ち上げる。そんな中、第一
世界大戦でドイツの浮流機雷のために
船舶を失うなどをした経験から、「陸
の上に沈まぬ船」として、アメリカ力



橋本喜造(1872~1947)
大分県中津生まれ長崎県育ち。実業
家・政治家。堂島ビルディング、橋本汽船
などを創業した。

堂ビル 100年 物語。



『大阪行幸記念空中写真帖 週刊朝日増刊』（朝日新聞社・1929年）より。当時の中之島周辺の風景。黒い瓦屋根の中、白い堂ビルが浮き上がって見える。

日米オールスターで 設計に当たる。

大正9年（1920）4月、喜造らは伊藤萬助（後のイトマン創業）、野村徳七（後の野村証券創業）らの出資を得て、建設母体となる株式会社堂島ビルディングを設立。最初は大阪セントービルディング、次に大阪ビルディングと命名されていたが、大阪汽船が同名のビル（現ダイビル本館）を計画していたことを知り堂島ビルディングに改名、大正11年（1922）に、株式会社堂島ビルディングになった。

当時、日本でも鉄骨鉄筋コンクリート造のビルは建てられていたが、高層ビルは少なかった。そのため、アメリカ人建築家に設計を依頼したり、東京の丸ビルが三菱とフラワース社で合弁会社をつくって建てられたように、アメリカの施工会社と提携して技術導入することが行われていた。

堂ビルに関しても、藤右衛門がフラワース社と打ち合わせをしたり、松方コレクションの美術館設計のために来日していたニューヨーク在住の建築家・妻沼岩彦とミーティングをしている記録がある。そして、藤右衛門は、妻沼に設計を依頼するためにニューヨークの事務所を訪問して基本設計契約を交わす。同時に島本四郎（後の竹中工務店

東京支店初代設計部長）に担当を任せ、妻沼事務所に預けたりしている。

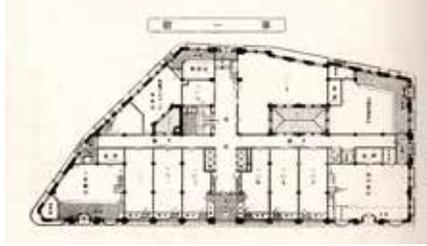
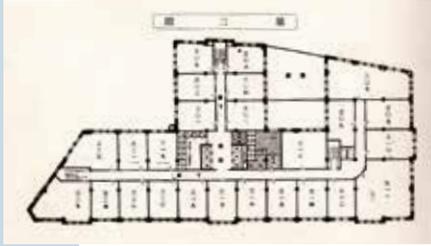
しかし、基本設計をしている途中で、御堂筋の拡幅が決定し、大幅に変更しなければならなくなり、基本設計を尊重するという合意の下に、設計を竹中工務店が継承することになる。その担当者、後の初代設計部長・鷺尾九郎である。同時に設計顧問を武田五一（京都帝大建築学科教授）に依頼。構造設計は、鉄筋コンクリート造の権威であった、日比忠彦（京都帝大土木学科教授）の教え子にあたる藤井彌太郎（後の設計部計算部長）が担当した。一方、妻沼事務所に残った島本も作業を続けていた記録がある。このように、堂ビルは、日米のオールスターが取り組んだ記念碑的な建築でもある。

モダニズムを 先取りする建築。

堂ビルの意匠は、建築概要には「近世



当初の完成予想図である「大阪ビルディング株式会社建築全景」（1920年）。9階建て、大きさは同じだが、角のアルなどディテールが実際とは異なる。



左上／玄関両側に3基ずつ設置されたオーチス製のエレベーター。右上／地下の大食堂。後に、堂ビルが直営した。左下／3階の図面。東側が凹型となり、小部屋が増える。右下／1階の図面。店舗のスペースを作るため、南北の通路が中央に来ている。

式」と記載されており、時代的にはネオ・ルネサンス様式あたりになるのかもしれないが、玄関のアーチや塔屋の幾何学的なあしらいは、セセッションやアールデコに近いと言える。創立趣意書に掲載されている完成予想図（P4）は、西南の角がアーチになっており、アールデコ調であるが、最終設計

案は直線的になり、さらにモダニズム建築に近くなっていると言えるだろう。御堂筋や堂島川から見ると長方形に見える堂ビルだが、裏側に回るとかなり様子が異なる。そもそも敷地が半円状にカーブを描いており、直線的ではないばかりか、3階より上は凹型になっている。

それは立地と関係している。もともと堂ビルの裏手は、かつては蜷川（曾根崎川）から堂島川に至る先端部分だった。つまり堂島の東端の土地が堂ビルということになる。この周辺の土地は明治42年（1909）のキタの大火で焼け、蜷川も大火で出た瓦礫で埋められていた。その土地を最初に購入したのが神戸の鈴

木商店だったようだ。

3階以上が凹型なのは、もともと上階にホテルを造る予定であったため、個室を増やし、採光の必要があったからだと思われる。したがって、西側の部屋の窓からは非常にユニークな堂ビルの造りを伺うことができる。

また、エッフェル塔や自由の女神でも採用されていた、オーチス製のエレベーターを7基導入し、それらを収納する屋上の塔屋は、機能的なデザインの中のアクセントになっていた。ただし、それらは過度に装飾的ではなく、オフイスビルとしての環境と設備の充実が主眼に置かれている。『株式会社堂島ビルヂング建築概要』（1923年）に記されているように、あくまで「堅固なる組立の上に軽快なるビジネスルームの提供」を目的としたビルだったのだ。

膨大な人力による建設工事。

ところで、構造的には、資金不足から鉄骨を使わずに、鉄筋コンクリート造になるなど、技術的にも資金的にも多くの課題を解決する必要があった。川辺の軟弱地盤のため2200本に及ぶ松杭を基礎にし、コンクリートには1800立坪に及ぶ大量の川砂が使わ

れている。現在、川砂は採取が制限されているが、塩害がなく強度が高い。

当時、コンクリートは現場でつくらなければならず非常に貴重であった。コンクリートミキサー車やポンプ車などはないので、現場で混ぜ合わせ、上まで吊り上げ、各部分に管で流し込んでいくという気の遠くなる作業が行われた。コンクリートが用いられたのは、床、柱、梁などの構造部分で、壁面などはレンガにタイル、漆喰などで造られている。しかし、現在の建築とは比べ物にならないくらい分厚く、今でも堂ビルの中に入ると厚い層で囲まれているという雰囲気を感じられる。

そして、延べ12万8000人の職人を動員し、工期20ヶ月をかけて、大正12年（1923）7月に開館した。その2ヶ月後の9月1日、関東大震災が起これ、堂ビルの上階でも揺れが感じられたという。東京の鉄骨造の建築も大きな被害があったため、その後、鉄筋コンクリート造が主流となる、構造的にも堂ビルは時代を先取りしていたのだ。



建設工事中の堂島ビルディング。膨大な数の職人が工事の大半を手作業で行った。

大阪の
文化センター！

堂ビルを彩ったテナントたち。

海外のホテルを参考に、当初計画から上階はホテルにする予定であった。当初7、8階は堂島ホテルとして経営されていたが運営会社の解散後、堂ビルホテルに名称を変更し直営となった。まだまだ洋式ホテルが少ない中、大小200余りの客室数を誇り、日本風呂・洋式風呂、和食・洋食などに対応。

当初より、外国人客でも不自由しないよう、「パブリック・サービス社」と提携し、各地ホテル、交通機関の交渉などツーリストビューロー的な機能も持っていた。堂ビル編集の旅行ガイド等も発行したり、当時、流行りだしたホテル内の神前結婚式・披露宴なども行えるようになっていた。

小出稻重の《街景》(1925年)は堂ビルホテルと思われる高層階から西側を、石井柏亭の《中之島(堂島川)》(1928年)は東側を描いたとされる。

外国人用に英語を併記したパンフレットを発行していた。大阪城天守閣が描かれているため、昭和6年(1931)以降の発行だと思われる。



堂ビルホテル 外国人も泊まれる ハイクオリティ。



堂ビル女学院

女性教育の先駆けとなった憧れの学校。

堂ビルの中で最もユニークな活動は堂ビル女学院に代表される、各種の女性向けの学校の開設・運営だろう。昭和恐慌で空いた2・3階の貸事務所を学校にし、洋裁・割烹・書道・華道・茶道・タイプライターなど、戦後の専修学校や短大に先行するカリキュラムをつくっていた。喜造自身が校主となっており、少しずつ職業婦人が増える中、女性教育に対しても先見の明があった。

当時「花嫁学校」と呼ばれたが、そもそも片岡鉄平の小説『花嫁学校』のモデルは、堂ビル家庭専修学院(後の女学院)に他ならない。系列の「堂ビル割烹学院」は、後に辻学園日本調理師学校(現辻学園調理・製菓専門学校)を開設する辻徳光が校長となるなど、一流講師を集めていたのも特徴である。また、洋裁学院は大阪市の最大規模であり、「洋裁界の最高峰」と自認し、あわせて1,000人以上の在学学生を抱えていたという。

卒業生には天折した女優・原静枝や戦後、デザイナー・ジャーナリストとして活躍したマダム・マサコがいる。昭和12年(1937)に大半を廃校にしたが、洋裁学院は神崎川のほとりに新校舎とともに移転して継続された。



さまざまなカリキュラムがあったが、洋裁は特に有名だった。いわゆるモガの発信地だったといえる。





上／小林一三(右から2番目)を迎えた会合。昭和6年(1941)。下／毎月発行されていた清交社の会報誌。昭和11年(1936)の表紙は堂ビルのイラスト。提供／清交社



清交社

昭和11年(1936)、ベルリン・オリンピック歓迎午後会。中央が高石真五郎。



関西の実業家が集う社交倶楽部。

当初ビルの最上階の8・9階がホテルの予定であったが、大正12年(1923)、関西の実業家たちが社交倶楽部をつくりたいという意思を堂ビルに告げ、交渉の結果、9階が社交倶楽部、7・8階がホテルとなった。その社交倶楽部が現在まで続く名門「清交社」である。

清交社は、福澤諭吉が東京に創立した「交詢社」の流れを汲み、学閥によらず幅広い人材を集めるため多くの関西の実業家を募った。その結果、社員数は戦前1,500名を超え、小林一三や若き日の松下幸之助など大大阪を担う優秀な人材を擁した。

初代理事長の高石真五郎は慶應出身で大阪毎日新聞社の後の会長兼主筆であるが、海外特派員などを経たため、世界情勢に詳しく、戦後、多くの近代建築が接収される中、GHQと交渉し免れたというエピソードがある。また、高石は戦前からIOC委員に選ばれるほどスポーツ界に影響力を持っており、清交社でベルリン・オリンピック出場選手の歓迎会を開催したり、海外のアスリートが堂ビルに宿泊するなどしている。

清交社は、戦後も堂ビルの象徴的存在であったが、平成11年(1999)に全日空ホテル(現ANAクラウンプラザホテル大阪)内に移転した。愛着があった社員が堂ビルにできるだけ近い場所を探したという。

堂ビルディングで、興味深いのは初期のテナントである。1階は銀行や森永製菓の店舗、郵便局などが入居し、2階が堂ビル百貨店、地下に食堂、7、8階にホテル、9階には社交倶楽部、屋上庭園があった。その他、女学院や女性向けの研究機関や出版社が入居し、ビル内でさまざまな交流が行われていた。堂ビルは単なる貸事務所ではなく、大大阪の一大文化センターだったのだ。

中山太陽堂 中山文化研究所・プラトン社

大正モダンを牽引したコスメ&文化拠点。

5階の全フロアには、化粧品会社の中山太陽堂(現クラブコスメチェック)の創業20周年を記念した中山文化研究所が開設され、女性文化や教育、美容などの最先端の研究が行われた。女性文化研究所、整容美粧研究所、口腔衛生研究所、児童教養研究所の4部門あり、美容や口腔衛生などの最新の施術・治療設備が整い、文化的な講演も数多く行われた。

中山太陽堂の創業者・中山太一は博覧会や飛行機などを使った大胆な広告宣伝で知られ、大大阪で一番目立つ堂ビルも最大限活用。ビルの屋上には中山太陽堂の「クラブ白粉」の広告がつけられていた。

また、中山太陽堂の系列会社にあたる、伝説の出版社として知られるプラトン社が大正14年(1925)の半年間、4階に事務所を構えている。その当時は、川口松太郎や直木三十五が編集部におり、著名な連載陣の中に、関東大震災後に関西に移ってきた谷崎潤一郎がいた。谷崎は大阪朝日新聞で連載中断となった『痴人の愛』を、プラトン社の文芸誌『女性』で再開。堂ビル入居時代に脱稿した。プラトン社の『女性』や高級娯楽誌『苦楽』の図案を担当したのは、両誌のタイトルロゴを制作し、装丁家としても活躍した山六郎や、日本のグラフィックデザイナーの先駆けである山名文夫だった。



上／児童教養研究所の様子。中／屋上広告。下／プラトン社発行の『女性』(表紙:山六郎)と『苦楽』(山名文夫)提供/(株)クラブコスメチェック



堂ビル 100年 物語。



昭和の大改修後に制作されたポストカード。当時流行の水平線が強調され、イメージも設備も一新した。

時代の变化に応じて 生まれ変わる。

戦後、堂ビルはどのように歩んだのだろうか。

昭和22年（1947）、喜造の死後、息子の喜久雄が継ぐが、昭和24年（1949）、42歳の若さで急逝。そのため孫にあたる弱冠22歳の昭一が三代目社長となり戦後の堂ビルを牽引した。空襲での被害はほとんどなかったものの、戦時中の供出により、多くの設

備がなくなり、戦後はまた貸しなどが横行したため「闇ビル」と言われた時期もある。それら进行处理し、昭和34年（1959）〜昭和35年（1960）に全面を大改修、設備も一新した。当時の写真を見ると、三つ窓をアルミ製のガラスサッシで一つにし、水平軸を強調しており、意匠的にもモダンズム建築のようになった。

平成に入り、阪神・淡路大震災において被災。躯体は問題なかったが、多くのガラスが落ちたため、平成8年（1996）〜平成11年（1999）、2

回目の大改修工事を実施し、外壁をガラスカーテンウォールに一新。中央管理空調から個別空調にし、OA対応の設備も完備したため、インターネット時代に対応できるようになった。

外観は初代の外観を意識し、ネオ・クラシックやアールデコ調の凹凸のある幾何学的な意匠、原点復帰で垂直軸を強調し、エントランス部分もさまざまな装飾が施され、風格と最新の機能を併せ持ったビルへと生まれ変わった。

1920年代に設計したため各部屋が狭く、テナントが成長して出ていくことが多かったが、近年ではIT系のスタートアップなど、人数が少ない企業にとって格好の間取りとなっている。躯体は頑強に造られ、外観と設備は常に時代のニーズに応じて変貌していく様子は、喜造の残した遺伝子であると同時に、ビル一つの理想形といってもいいのではないか。その風格は、中で仕事をしている人が一番知っているだろう。

大正時代に建てられた近代建築の中で、堂ビルほどの規模のものは全国的にもほとんど残っていない。あつたとしても外側の意匠のみを残した、いわゆる「腰巻き保存」が多い。堂ビルは真逆で、意匠や設備は時代に合わせて変化し、躯体は竣工当時のまま「生きている」のだ。もう一つの「生きた建築」をぜひ体感してほしい。

「イケフェス大阪2019」にて、堂島ビルディングも大公開!

10月26・27日に開催される「生きた建築ミュージアム大阪2019」では、堂島ビルディングも特別公開。3階の株式会社堂島ビルディングのオフィスでは、竣工時のビルの巨大な模型が見られるほか、貴重な資料・写真も並ぶ。また、堂ビル6階にある島民プレスのオフィスも公開。みなさまのお越しをお待ちしています!



「生きた建築ミュージアム大阪2019」堂島ビルディング公開
日程／10月26日(土)・27日(日) 時間／10:00AM~4:00PM
場所／3階:株式会社堂島ビルディング オフィス 6階:602号室(株式会社140B)、金庫室
◎詳しくは9月20日頃から発売予定の公式ガイドブックやwebサイトなどで確認を。



残席わずか!

◎お申し込み受付中の講座

9/12(木) 9月講座 「ハズさない! 街歩きの達人レッスン」
講師/山納 洋(大阪ガス近畿圏部都市魅力研究室室長)

2014年から「Walkin' About」という街歩きを開催している山納洋さん。ガイドと一緒に決められたコースをめぐるのではなく、参加者が自由に街を歩き、それぞれの発見や体験を語り合うのだそうです。そんな一風変わった街歩きを60回以上にわたって開催し、関西各地を歩き回ってきた山納さんが、どんな街でも楽しい発見をしながら歩ける方法を伝授します。

日程/2019年9月12日(木) 時間/7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM)
会場/大阪府立中之島図書館 別館 受講料/1,800円 定員/80名
主催/ナカノシマ大学事務局 協力/学芸出版社

「Walkin' About」を題材にした山納洋さんの新刊『歩いて読み解く地域デザイン』(学芸出版社)も販売します。



10/2(水) 10月講座① 「生きた建築ナイト2019」
対談/倉方俊輔(大阪市立大学准教授・建築史家) 高岡伸一(近畿大学准教授・建築家)

毎年恒例の
大人気講座!

毎年恒例、「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」の見どころや大阪の建築の魅力を語り合います。今年の会場は中之島三井ビル4階の食堂。今月リニューアルされたばかりの最新の空間で、毎年パワーアップするイケフェス大阪の楽しみ方を、みんなで共有しましょう。

日程/2019年10月2日(水) 時間/7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM)
会場/中之島三井ビル4階[CUI MOTTE nakanoshima] 受講料/2,000円(ドリンク付き) 定員/150名
主催/ナカノシマ大学事務局 協力/三井不動産 三井不動産ビルマネジメント



特集で取り上げた堂島ビルヂング(P2~)や会場である中之島三井ビルも今年から公開に参加。期待大!

10/12(土) 10月講座② 「世界に誇れ! 日本の時代劇」
講師/高橋 剣(東映京都撮影所スタジオ事業部長)

世界の映画シーンに大きな影響を与えてきた日本の時代劇。今回は、長きにわたり東映撮影所で映画制作に携わってきた高橋剣さんをご登場。時代劇の歴史や大阪が舞台の作品、さらにはあのスターの意外な一面など、現場経験者ならではの秘話をたっぷり明かしていただきます。

日程/2019年10月12日(土) 時間/2:00PM~3:30PM(開場1:30PM)
会場/堂島ビルヂング 9階ホール 受講料/2,000円(記念品付き) 定員/80名
主催/ナカノシマ大学事務局 協力/東映京都撮影所

高橋さんが企画する、世界の最新歴史映画が登場する「京都ヒストリカ国際映画祭」の記念グッズをプレゼント!



映画祭との
連動企画

祝! 世界遺産

◎今後の予定(10/1(火)よりお申し込み受付開始)

11/8(金) 11月講座 「秋から冬が旬! の百舌鳥・古市古墳群」
トーク/山田幸弘(藤井寺市世界遺産登録推進室長) 橘 泉(堺市博物館学芸員) 郡 麻江(ライター)

日程/2019年11月8日(金) 時間/6:45PM~8:45PM(開場6:15PM) 会場/相愛大学 本町キャンパス内 受講料/2,000円(お土産付き) 定員/180名
主催/ナカノシマ大学事務局 特別協力/相愛大学人文学部 協力/堺市 藤井寺市 後援/歴史街道推進協議会

募集要項

お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。
複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。
〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルヂング602号 「ナカノシマ大学」受付係 FAX.06-6484-9678
※先着順で受付後、随時受講票をお送りします。※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。

◎詳しい開催情報はナカノシマ大学のwebサイトで随時更新していきます。
<https://nakanoshima-daigaku.net/>

ケータイや
スマホからは
こちら!→



お問い合わせ
☎06-6484-9677
(ナカノシマ大学事務局)

天満天神繁昌亭
毎月25日のお楽しみ

天神寄席 噺のおどろき

九月席

お申し込み要
お申し込み要

●お題【大工】

「金剛の 堂宮大工たち」

今回は、鼎談ゲストの木下昌輝さんの新刊『金剛の塔』にちなんで、堂宮大工さんや四天王寺が登場する落語が勢揃い。

落語 桂米輝「擬宝珠」

桂あき吉「鷲とり」

笑福亭生喬「竹の水仙」

林家染二「手は魅」

笑福亭昌鶴「天玉奇話り」

鼎談 「落語と時代山説」

ゲスト 木下昌輝（山説家）

高島孝次（大阪大学招聘教授）

桂春彦



林家染二



笑福亭昌鶴

開催日／9月25日（水）

開演時間／6:30 PM

（開場 6:00 PM）／受付開始 5:45 PM

受講料／2,300円

（通常：前売2,500円／当日3,000円）

●お申し込み方法などはP9を参照してください。

十月席

お申し込み要
お申し込み要

●お題【親子】

「びったいな 親子」

親子の間では何かとトラブルが起こるもの。となると、落語のネタにもなりやすいわけで。ほのぼのとしつつも可笑しい親子の落語が並ぶ。

落語 月亭遊真「親子酒」

笑福亭比ま「近日息手」

笑福亭伯枝「佐々木裁き」

桂米二「親子茶屋」

笑福亭福笑「桃太郎」

鼎談 「親子と厄介なも／はなは」

ゲスト 久板栄幸（山説家）

高島孝次（大阪大学招聘教授）

桂春彦



桂米二



笑福亭福笑

開催日／10月25日（金）

開演時間／6:30 PM

（開場 6:00 PM）／受付開始 5:45 PM

受講料／2,300円

（通常：前売2,500円／当日3,000円）

●お申し込み方法などはP9を参照してください。

十一月席

お申し込み要
お申し込み要

●お題【浪花百景】

「上方落語 百景」

落語 桂りょうは「阿弥陀池」

笑福亭喬介「崇徳院」

笑福亭純瓶「櫓の音」

桂九雀「淀の鯉」

露の都「初天神」

鼎談 「錦絵を讀み解く」

ゲスト 橋爪節也（大阪大学教授）

高島孝次（大阪大学招聘教授）

桂春彦

開催日／11月25日（月）

開演時間／6:30 PM

（開場 6:00 PM）／受付開始 5:45 PM

受講料／2,300円

（通常：前売2,500円／当日3,000円）

●お申し込み方法などはP9を参照してください。

○注意事項

※受講料は当日（5:45 PM）繁昌亭入場口脇の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※各公演の予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。

なお、ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

※詳しい開催情報はナカノシマ大学のwebサイトで随時更新しています。

webサイトで随時更新しています。

大阪水上バス・
岸田俊徳の



水辺で会いましょう

大阪水上バス株式会社企画宣伝部課長。ミナミの劇場プロデューサーを経て、関西・大阪21世紀協会にて大阪の文化事業に関わる。2010年より現職。

「大阪妄想クルーズ 中級編」

仕事柄、年間に何十誌というガイドブックとクルーズ情報のやり取りをするのですが、その中で、ちょっとした楽しみがあります。それは送ってくださった掲載誌を眺めて、街の情報を知ること。グルメや雑貨など、よく知っているお店があれば初めて知るお店もあり、ついガイドブックのマップ上で妄想散策してしまいます。街に親近感を感じさせるガイドブックってすごい！僕なんて「老舗」の情報をみるとすぐに行ってみたくります。

落語家の故2代目桂春蝶さんは、道頓堀にあるうどんの老舗「今井」のきつねうどんが大好きだったそうです。ただ、食が細く1杯を食べることができないために、楽屋から出前を頼む時は麺は少なめで、「きつねうどんのきつね抜き」とお願いしていたと、とある芸人さんから聞かせていただきました。最初からお揚げさんがのっていない「素うどん」ではなく、いったんお揚げさんをのせて箸でジュワジュワ

してから取り出すのだそうです。ほんのり甘い香りと味を感じるのが良いらしい。ただ、講師の話なので、ホントかウソかはわかりませんが……。

さて、道頓堀といえば、土日・祝だけの限定クルーズになりますが、大阪城公園にある港と道頓堀にある港を繋ぐ「アクアmini 大阪城・道頓堀コース」がおすすめです。大阪の二大人気スポットを30人乗りの小型船でご案内。たまに私も操船しているんですよ。船内でもガイドブックを片手に次の目的地を探しているお客様がたくさんおられて、「どこのたこ焼きがおすすめ？」「一番おいしいお好み焼きはどこ？」とかよく聞かれます。「きつねうどんのきつね抜きクルーズ」なんてやれば、人気クルーズになったりして（どんなんや？）

ガイドブックを参考に、少し街を深



掘りしつ、オリジナル穴場クルーズを楽しんでみませんか？

アクアmini



☎0570-035-551 <http://suijo-bus.osaka/>

NAKANOSHIMA NIGHT VIEW CRUISE Have a twinkle night with AQUABUS.



2019.10.01 Tue — 11.30 Sat

浪華三太橋をはじめ、大阪市中央公会堂や大阪城のライトアップ、剣先公園の大噴水、建ち並ぶビル群など、中之島周辺はミナミの繁華街とは違う、水と光が織りなす大阪都市の美しい風景。世界に誇れる中之島の夜景を巡る期間限定の贅沢なクルーズです。

乗下船港 ● 八軒家浜船着場

アクセス ● 京阪電車・大阪メトロ谷町線 天満橋駅下車すぐ

※チケット売場は京阪電車 天満橋駅 西改札横

出航時間 ● ①17:40 / ②18:10 / ③18:40 (所要時間:約25分)

乗船料金 ● 大人1,500円 / こども(小学生)750円

予約 ● 大阪水上バス アクアライナー 予約センター (9:00~17:00)

☎0570-035-551



9月
RENEWAL

中之島三井ビルが大規模なりニューアル。 4階食堂は新しい「つながり」の場に。



【CUIMOTTE nakanoshima】(中之島三井ビル4階)
営業時間/8:00AM~9:00PM 定休日/土・日・祝日

中之島三井ビルが2002年の竣工以来初となる大規模なりニューアルを果たす。島民的に大ニュースなのは4階の食堂。これまではビルで働く人たちのランチの場所だったが、これを機に朝から夜までの営業となり、ビル以外の人でも利用しやすくなった。朝から夜まで営業しており、ランチはもちろんモーニングやディナーもOK。フードメニューだけでなくお酒も充実しており、バーとしても使えるという点でも嬉しい。今回のリニューアルで重視したのは「つながり」。

「CUIMOTTE」という関西弁の店名が示すように、飲食するだけではなく、ワーカー同士や中之島の人々がここで出会い、さまざまなアイデアや動きが生まれることを目指している。そのため、電源やWi-Fiを完備し、ワーキングスペースとしても使えるだけでなく、約2000冊のライブラリーも併設。コンシェルジュも常駐しているという。最近の働き方改革の流れをばっちり体現したような新しい空間。まずは朝のコーヒーでも、帰りがけの一杯からでも自由だ。

新刊
BOOK

京阪神の3都市を、人文地理学で読み解く。 街歩きや地域防災の教科書にもぴったり!

各地で街歩きが流行っている。あるいは、自然災害への対策から地域防災に目が向けられるようになった。共通するのは、自分たちの住む地域への関心の高まりだ。『図説 京阪神の地理』は、そうした街のなりたちへの興味を多面的に深めてくれる一冊だ。大阪・京都・神戸の3つの大都市がどのように生まれたのかを、さまざまな角度から解説。地図や統計資料がぎっしり詰まった教科書仕様の内容だが、だからこそ信頼できて面白い。

本書を読めば納得できることだが、都市が生まれるにあたっては、地形や気候などの自然条件や各時代の政治状況によって左右される。また都市の盛衰や人口の増減には産業構造や交通インフラの変化、観光などの要因も関わってくる。街のなりたちにはいくつもの要素が絡み合っているのだ。調査に基づき、それらを一つずつ解きほぐしていくのが人文地理学であり、本書のテーマでもある。関西の3大都市に特化した内容ではあるが、この本を補助線とすれば、地元の街をさらによく知る手がかりになるはずだ。



『図説 京阪神の地理
—地図から学ぶ—』
山口寛ほか著
(2,500円+税・ミネルヴァ書房)



9月・11月

LECTURE

データを元に、 大阪のビジネスの今 を読み解く連続講座。



「大阪の産業・経済を知る!」

日程／

第1回 9月11日(水) 講師:松下隆

「大阪産業・経済の特徴って?」

「なにわの経済データ」から読み解く

第2回 9月25日(水) 講師:越村惣次郎

「アジアの活力を取り込む中小企業」

第3回 11月13日(水) 講師:天野敏昭

「多様な人材の雇用と活躍について」

第4回 11月27日(水) 講師:山本敏也

「地域の「稼ぐ力」を高める仕組みづくり」

時間／毎回6:30PM～8:00PM

会場／大阪府立中之島図書館 別館 2階

参加費／無料 定員／各50人

◎申し込み方法など詳細は図書館のHPにて

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/business/r1-orcie-seminar.html>

大阪府立中之島図書館では、歴史・文化や経済などさまざまな展示や講演を開催している。9月と11月にかけて行われる「大阪の産業・経済を知る!」は大阪府のシンクタンクである大阪産業経済リサーチ&デ

ザインセンターの主任研究員が、直近のデータや調査結果を元に大阪の産業の特徴やビジネスのヒントを解説する。商都と呼ばれる大阪のリアルを知ることができます。

10月

FORUM

沿線の「城」を 掘り下げる 京阪・文化フォーラム。

第44回目となる京阪・文化フォーラムは、「京阪沿線の城と歴史発見」をテーマに、京街道や京阪沿線の城に注目する。講演では、戦国時代の城郭史が専門の中西裕樹さんが、「水と歴史と天下をつなぐ京阪沿線の城」を解説。京阪沿線の城についての歴史などを語る。また、大阪城天守閣の研究副主幹・宮本裕次さんは「大阪城と天満橋・八軒家」について講演する。京への舟運の拠点だった八軒家を取り上げ、城と川の関わりについて考察する。

第44回京阪・文化フォーラム

日時／10月26日(土)

1:00PM～4:00PM(予定)

会場／OMMビル1階 グラン101-102

参加費／前売1,000円 当日1,200円

定員／230名

◎申し込み方法など詳細は

京阪電車主要駅で配布の

チラシまたはHPにて

<http://www.okeihan.net/navi/culture/>



中之島まちみらい協議会だより

第2回

「フォトコンテストを開催します!」



2018年度最優秀賞「no music no life」

中之島まちみらい協議会の活動の柱の一つに、毎年開催しているフォトコンテストがあります。中之島の美しい風景をたくさんの人に知ってもらおうと始まったもので、今年で第14回目を迎えました。今回のテーマは、「世界とつながる中之島」です。大阪の国際交流の中心地を目指して、さまざまなプロジェクトが進む中之島。その魅力を世界へ届けるべく、中之島

の素晴らしいシーンを広く募集します。

最優秀賞に選ばれた方(1名様)には、ダイビル本館にあるレストラン「BOOCHIC」のお食事券を差し上げます。その他、優秀賞(5名様)にも豪華な賞品をご用意しています。フォトコンテストを通じ、中之島まちみらい協議会とみなさんが「つながる」ことも楽しみにしています。たくさんのご応募をお待ちしています!

第14回 NAKANOSHIMA-STYLE.COMフォトコンテスト

●Instagram応募の場合 スマートフォンにInstagramをインストールしてアカウントを開設し、公式アカウント「nakanoshima_style」をフォローし、写真を投稿する。投稿時にはコメント欄には作品タイトルと撮影場所・撮影月を記載し、ハッシュタグは「#中之島フォトコン2018」「#中之島」を記載。

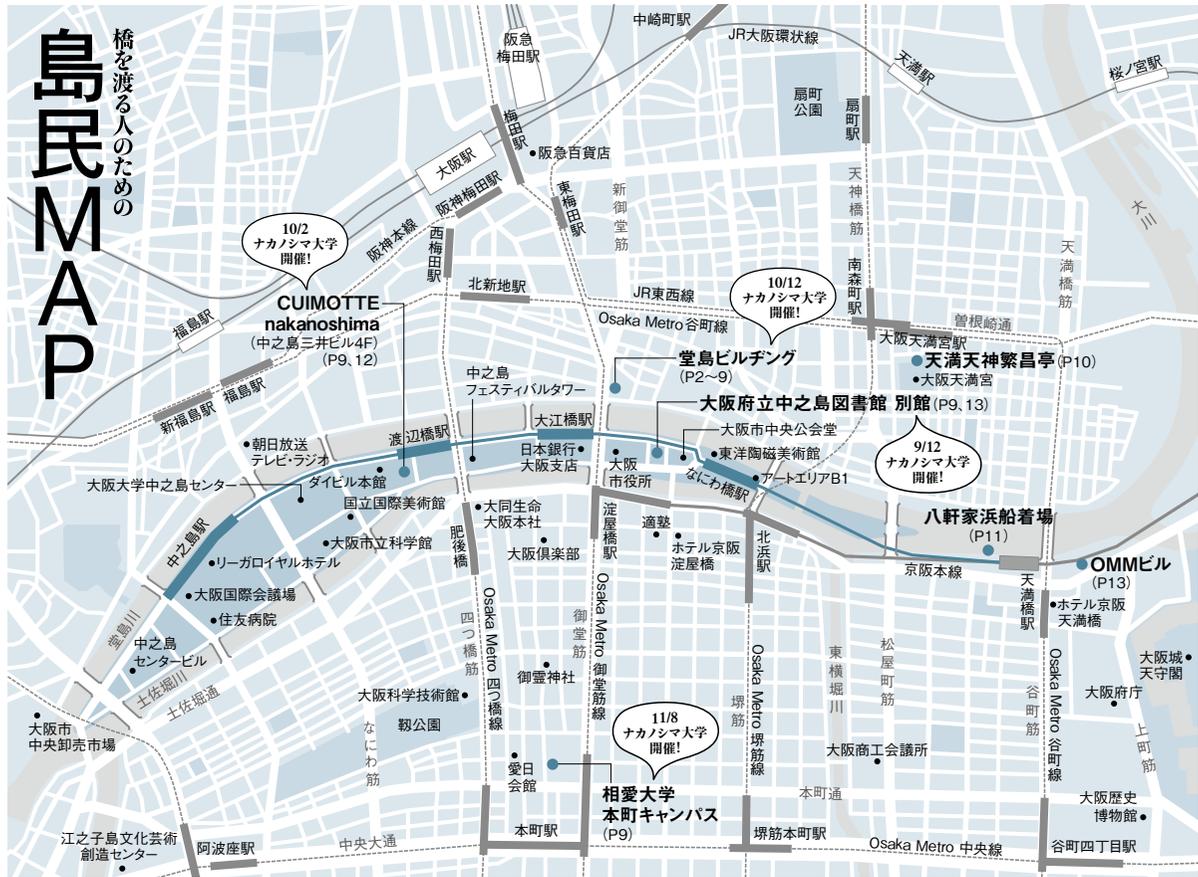
●メール応募の場合 撮影したデジタルデータをメールに添付してoubo@nakanoshima-style.comへ送信。ファイル形式は JPEG(2MB以下)、メールに、作品タイトル・ニックネーム・撮影場所・撮影月を記載。

写真撮影期間／2018年12月～2019年10月 募集期間／10月31日(木)まで
◎詳しい応募方法や過去の優秀作品は下記のHPにて

中之島の地域情報サイト

中之島スタイル.com

<https://www.nakanoshima-style.com/>



◎『島民』はここでもらえます。

- 京阪グループ 京阪電車主要駅／京阪特急プレミアムカー／ホテル京阪 淀屋橋／ホテル京阪 天満橋／ホテル京阪 京橋 グランデ／パナテック京阪天満橋／京阪シティモール／京阪モール
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店／大阪高裁内ブックセンター／紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店／ジュンク堂書店 大阪本店・天満橋店／清風堂書店／西日本書店／ブックススタジオ／文教堂書店 淀屋橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／隆祥館書店 【公共施設・大学関連施設など】アイズポット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／朝日放送テレビラジオ／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立科学館／大阪市立総合生涯学習センター／大阪市立東洋陶磁美術館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪歴史博物館／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／北御堂／くすりの道修町資料館／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／芝川ビル／市立住まじ情報センター／適塾／ドーナツ／中之島香雪美術館／ホテルNCB／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス 【店舗・医院など】アサヒスーパードライ梅田／江戸前鰻料理 志津可／cafe大阪茶会／co-ba nakanoshima／天満橋鍼灸整骨院／エルマーズグリーン コーヒーカウンター／大西洋服店／喫茶センターロ／喫茶SAWA／喫茶星霜／グランスイート中之島／黒門さかえ／The Court／五感 中之島ダイビル店／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シアルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Giron'd's JR／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／たまがわ鍼灸整骨院／デニムマッドネス／バストラーレ／平岡珈琲店／白灯／ビルマニアカフェ／feu feu／FOLK／フレイムハウス／丸福珈琲店 中之島ダイビル店／ミニジロー／吉田理容所
- 大阪市内その他 【書店】旭屋書店 なんばCITY店／紀伊國屋書店 京橋店・天王寺ミオ店／喜久屋書店 阿倍野店／ジュンク堂書店 難波店／福島書店／丸善 高島屋大阪店／柳々堂／ループル書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪科学技術館／大阪市社会福祉研修情報センター／大阪市立中央図書館／大阪府立江之子島文化芸術創造センター／川口基督教会 【店舗・医院など】アートアンドクラフト／オールドリバー／御舟かもめ／カルチャーカフェ上方／Calo Bookshop and cafe／パルピコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／枚方萬屋書店／Books 呼文堂／水嶋書房 くずはモール店／大阪狭山市立図書館／大阪市立難波市民学習センター／大阪大学企画部広報・社学連携事務室／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／大阪府立中央図書館／摂南大学 地域連携センター／豊中市千里文化センター「コロポ」／野村呼文堂／Mamma／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 クロスロードカフェ／ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／宝塚市立中央図書館／奈良県立図書館情報部／百線／八幡市立男山市民図書館／龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店(千駄木)／BOOKSルーエ(吉祥寺)／B&B(下北沢)／隣町珈琲(荏原中延)／ONLY FREE PAPER(東小金井)／かもめブックス(新宿)

◎バックナンバーが見られます。

最新号の発行と同時に、ひとつ前の号がweb上で閲覧できるようになります。創刊号から見たい方はこちらから。<https://nakanoshima-daigaku.net/about/tomiri/>

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

編集・発行人／大迫力(株式会社140B)

編集・発行／島民プレス 若狹健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所) 松本 創 道田恵理子 山國恭子(株式会社140B)

〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号 TEL.06-6484-9677 FAX.06-6484-9678

制作進行／堀西賢(ALEGRESOL) デザイン／山崎慎太郎 表紙イラスト／奈路道程 印刷／佐川印刷株式会社

●島民2019年冬号 Vol.132は12月1日発行です!

何度でも見とれてしまおう、

京都です。



建仁寺（京阪電車 祇園四条駅下車）
「京旅館 おけい庵」 三条けい子

京阪のる人、
おけいはん。

京阪で、おこしやす。

<https://www.okeihan.net>